

平成 28 年(2016 年) 県議会議長年頭所感

山口県議会議長 畑原 基成

【はじめに】

明けましておめでとうございます。

県民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことに謹んでお慶びを申し上げます。

本年が、皆様にとりまして、希望に満ちた素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたします。

【昨年を振り返って】

さて、昨年、山口県議会は、4月に行われた県議会議員選挙を経て、47人の議員による新たな議会活動がスタートした年でありました。5月の議長選で、私は、歴史と伝統ある山口県議会の第62代の議長に選任をいただき、塩満副議長との二人三脚で、公正かつ円滑な議会運営に努めてまいりました。

また、6月には、全国都道府県議会議長会の地方自治委員長にも選ばれ、現下の最大の課題である地方創生の推進をはじめ、地方税財源や災害対策の充実強化などについて、国に対し積極的な要請活動を行ってまいりました。

このように、私は、議長就任以来、人口減少や少子高齢化の進展など、本県を取り巻く厳しい社会経済環境の中にあっても、目の前の困難に臆することなく、「活力みなぎる山口県」の実現に向け、粉骨砕身、全力で議長の職務に当たってきたところです。

ここに新年を迎え、決意も新たに、さらなる県勢の発展と県民福祉の向上、また、議会活動の活性化に向け、一層の努力、精進を重ねてまいる覚悟であります。

【県議会の取組】

こうした中、国においては、第3次安倍改造内閣が、我が国の構造的な問題である少子高齢化に真正面から挑み、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の「新・三本の矢」による「一億総活躍社会」の実現に向けた取組を進められております。

一方、本県においても、村岡知事が、人口減少を克服し、将来にわたり、地域の活力を維持・向上させていく山口県発の地方創生に果敢に挑戦されております。

このように国・県を挙げた取組が進む中、地域の代表である各議員には、地域の声をしっかりと聞き、県と地域、国と地域をつないでいく絆の役割が、一層強く求められております。

このため、県議会では、各議員の闊達な議論の下に、県執行部の予算や施策等のチェック機能を果たしていくことはもとより、地域の声を反映させた政策の立案や提言など、「発信力のある県議会」を目指した取組を進めてまいります。

まず、喫緊の課題である地方創生に関しては、「地方創生推進特別委員会」において、現地調査や意見聴取等を重ねて対応策等を取りまとめ、本県独自の地方創生の取組が、より地域の実情に即した実効性のあるものとなるよう、しっかりと政策提言を行っていくこととしております。

また、人口減少の克服や地域再生の鍵となる少子化対策や子育て支援に関しても、「山口県議会子育て環境づくり推進議員連盟」を中心に、行政や地域団体、企業等ともスクラムを組み、社会全体で子どもや子育て家庭を支える機運の醸成や、子育て支援の輪を広げるための活動に積極的に取り組んでまいります。

さらに、議会活動の充実強化や透明性の向上等に向けた取組については、「議会改革検討協議会」における議論等を通じて、県民の皆様への負託に応えうる県議会を目指し、幅広い観点から検討を進めてまいります。

とりわけ、本年は、選挙権の年齢を18歳以上へと引き下げた改正公職選挙法が施行される節目の年であります。将来の山口県を担う若い世代の皆さんには、これまで以上に県議会の役割や県行政への理解と関心を高めてもらわなければなりません。

このため、県議会では、まずは選挙権年齢引き下げの影響が大きい高校生を対象とした「第1回やまぐち高校生県議会」を、来る1月20日に開催いたします。

この模擬議会は、県内各学校から推薦された議員定数と同じ47名の高校生たちが、県議会の本会議場において、「山口県を元気で住みやすい県とするための取組」をテーマに質問をし、知事をはじめとする県執行部から答弁を受けるという本番さながらの方式で実施いたします。

今後は、このような模擬議회를、中学生も対象としながら継続的に開催するとともに、インターネットを活用して、時代にあった形で県議会の情報を積極的に発信してまいりたいと考えております。

【今年の干支】

さて、今年の干支は、「丙申（ひのえ・さる）」です。

「丙申」という字は、樹木が力強く伸び行くさまを表すとされております。

県議会といたしましても、干支にあやかり、本年が「活力みなぎる山口県」の実現に向け、大いに伸び行く一年となりますよう、全力を尽くしてまいります。

【おわりに】

県民の皆様には、県議会に対しまして、どうか本年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。